



竹林の風

文部科学省指定 平成29・30年度 人権教育研究指定校事業 若松原中学校の取組

研究テーマ 「互いのよさを認め合い、思いやりを大切にしたい人間関係づくりができる生徒の育成」

研究内容

- ・自己肯定感を高める指導
- ・よりよい集団を育成するための人間関係作り
- ・他者の話を聞く態度の育成
- ・自分の考えを他者に伝えるコミュニケーションスキルの育成
- ・心にひびく魅力ある道徳授業の実践

宇都宮市立若松原中学校では、平成29年度から2年間にわたり、文部科学省からの指定を受け、人権教育の研究に取り組んできました。研究を始めるにあたり、生徒の実態把握を行うため、アンケートを実施しました。その結果、自己肯定感が低い生徒が多いことや、人権を尊重することの大切さは理解しているものの、自分が正しいと思うことを周囲に伝えることは苦手としている生徒が多いということが分かりました。そこで、生徒の自己肯定感を高めること、自分の意見を伝える力を育てることが必要であると考え、研究テーマと5つの研究内容を設定しました。テーマの実現を目指した多くの実践の中から、道徳の授業における取組を紹介します。

「心にひびく魅力ある道徳授業の実践」

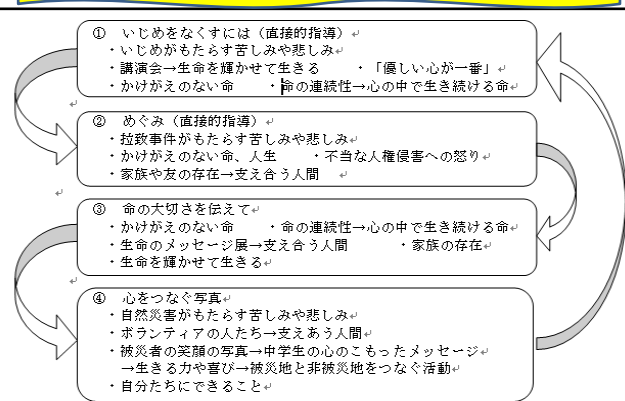
★心の琴線に触れる瞬間を生み出す道徳の時間
道徳の時間を、「生徒がよりよくなるとうとする自分を感じ、自己を肯定的に受け止められる時間」と考え、授業の中で、生徒が強い感動や深い感銘を受けたり、心に衝撃を受けて心を揺さぶられたりする場面を設定した。生徒は本気で道徳的価値について考え、自己を見つめ直し、よりよい生き方について考えを深めていくことができた。また、本音で話し合う活動を通して、他者の考えを聞き、共感的に理解したり、自分の考えを伝えたりする力を高めることができた。

2年道徳
「心をつなぐ写真」
中心価値
「社会参画」
関連価値
「思いやり」



生徒が道徳的価値について本気で考え、グループ活動で本音で自分の考えを伝え合っていました。

道徳的価値を相互に関連させた道徳授業の実施



★「重点主題連携プラン」の実施

今年度2学年では、重点主題「支え合って生きる」に迫るため、4回の道徳授業と宮っ子チャレンジ、立志式等の学校行事や学級活動、総合的な学習の時間といった、複数の教育活動との関連を意識して授業を計画・実施した。立志式では、サプライズで保護者の手紙を読むことで、家族に支えられて生きてきた自分がいる幸せに気づき、人とつながることの素晴らしさを知った生徒が多かった。

2年間の研究を経て再度生徒にアンケートを実施したところ、互いのよさを認め合う姿勢や、差別や不正に対する悲しみや怒りを共感する感受性などの人権意識の高まりが見られました。また、課題となっていた自分を大切に思う気持ちやコミュニケーションスキルにも成長が見られました。更に、全校体制で研究を進めたことが、教職員の人権意識の高揚にもつながりました。今回の実践は、日々の授業や特別活動などに、人権教育の視点を取り入れたことで、それぞれの活動が効果的につながり合い、より大きな成果を生んだ好例です。

年度末には、学校のホームページに2年間の研究の成果が詳しく掲載される予定です。今後、各学校における人権教育の推進に際し、大いに参考にさせていただきたいと思っております。

特別活動 ～「学級会」の充実に向けて～

特別活動は、すでに新学習指導要領による授業が行われており、その中で育てる資質・能力の重要な3つの視点として、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」が示されました。「社会参画」に必要な資質・能力は、集団の中における自発的・自治的な活動を通して育まれると考えられます。そのためには、学級活動(1)での学級会の充実が大切です。

学級会では、児童生徒から出された提案理由をもとに、課題解決のための方法を話し合い、解決方法の決定を行います。基本的な流れとしては、「出し合う」→「くらべ合う」→「まとめる(決める)」が考えられます。その流れについて、ご紹介します。

議題の確かめ

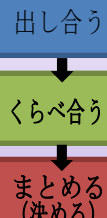
- 司会グループの紹介、議題や提案理由、話し合うこと、決まっていることなどを学級全体で確認し、見通しを持って話し合うことができるようにします。
- めあてを確認したり、学級の歌を歌ったりして学級のみんなで話し合う雰囲気をつくり、意欲を高めます。

(進め方の例)

- ① はじめのことば
- ② 計画委員会の紹介
- ③ 議題の確認
- ④ 提案理由やめあての確認

※話し合うこと①が決まっているときは、話し合うこと②から話し合うようにする。
※話し合うこと②が決められているときは、話し合うこと③は振りの会や朝の会で話し合うようにする。

話し合うこと①
(何をするのか)



解決方法等の話し合い

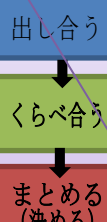
出し合う

提案理由や話し合いのめあてに沿って、自分の考えを自分の言葉で発表します。

くらべ合う

質疑応答を通して出された意見の内容をわかり合い、共通点や相違点を確認めたり理解したりします。その際に、出された意見の分類・整理を行ったり、提案理由や話し合いのめあてなどを視点としてくらべ合ったりして、よりよい解決の方法を探っていきます。

話し合うこと②
(どのようにするのか)



解決方法の決定

まとめる(決める)

いろいろな意見の違いを認めながら、学級全体としてよりよい解決につながる自分の意見を提案します。そして、最終的に折り合いを付けるなどして**合意形成**を図り、みんなの総意としてまとめる(決める)ようにします。

【話し合うことを設定する上での5W1H】

学級会で話し合うことは、主に以下の3つが基本となります。

- ★話し合うこと①: What「何をするのか」(内容等)
- ★話し合うこと②: How「どのようにするのか」(工夫、約束、ルール等)
- ★話し合うこと③: Who「誰がやるのか」(役割分担等)

※話し合うこと②のHow「どのようにするのか」に重点をおいて話し合うことが大切です。それにより、提案理由に沿って考えたり、決められた条件の中で創意工夫を生かしたりするなど、思いのこもった話し合いをすることができます。

※Why「なぜその活動を行うのか」は提案理由であり、話し合いのよりどころとなるものです。

※When「いつ行うのか」、Where「どこで行うのか」は、教師が事前に決めておくことであり、「決まっていること」として事前に学級で共通理解しておく内容です。

話し合いのまとめ

- 話し合いで決まったことを発表し、決定された内容を全体で確認します。
- 教師の話では、話し合い活動のよかったことや課題を具体的に話すとともに、司会グループや学級全体へのねぎらいを伝えたり、実践に向けての意欲を高める声かけを行ったりします。

(進め方の例)

- ① 決まったことの発表
- ② 話し合いの振り返り
- ③ 先生の話
- ④ 終わりの言葉